

シンポジウム 「国民国家を越える伝統、文化、そして連帯」

日時 2022 年 12 月 16 日（金） 16 時 15 分 - 19 時 45 分（5・6 時限）

場所 [ウェビナー登録はこちらをクリックしてください。](#)

または QR コードを読み取ってください。

早稲田大学戸山キャンパス 3 3 号館第 1 会議室から配信いたします。



使用言語 日本語

企画趣旨

東アジアの伝統・文化や生活様式は国民国家の枠組みが形成される以前から相互に交流がなされてきました。近現代に入り、国民国家のシステムが東アジアにも広がり、また 20 世紀前半の帝国主義と植民地主義、さらに後半の冷戦体制は東アジアにおける伝統、文化、連帯のあり方を大きく変えました。

そもそも伝統や文化、生活様式に「国籍」はあるのでしょうか。ユネスコ世界遺産は国民国家単位での登録制になっていますが、そのような仕組みはユネスコが推進する平和文化の促進になっているのか考えてみたいです。

さらに、ポスト冷戦期の今日、東アジアの新しい連帯運動はどのような形で国境を越

えて展開しているのかについても再考いたします。専門家たちの研究報告とラウンドテーブル形式の討論を通じて新たな問題の設定と考察を試みます。

プログラム

司会・進行 金 敬黙（早稲田大学）

第1部 16：30－18：00

・報告1 福島みのりさん（名古屋外国語大学・准教授）

「名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会」の「ほうせん花 2022」

・報告2 呉世宗さん（琉球大学・教授）

90年代の沖縄と韓国の米軍基地をめぐる連帯運動

・Q&A

休憩 18：00－18：15

第2部 18：15－19：45

・報告3 松井理恵さん（跡見学園女子大学・准教授）

世界遺産とコンフリクトー環境社会学の観点から

・Q&A

・ラウンドテーブル：3人の報告者＋李美淑さん（東京大学・准教授）＋玄武岩さん（北海道大学・教授）＋金敬黙（早稲田大学・教授）

主催 早稲田大学・韓国学研究所

共催 早稲田大学・アジア研究所、北海道大学・東アジアメディア研究センター、
科研基盤研究B（22H00899）「親密圏と公共圏からみる〈日韓連帯〉の政治社会学」

後援 KOREA FOUNDATION

問い合わせ先： 金 敬黙 kimkmok@waseda.jp